

第1B(小)分科会 教育課程に関する課題

提案主題 教育課程のP D C Aサイクルをめざして
サブテーマ ~教科領域と行事や取組を関連させた教育課程編成シートの運用~
討議の柱 教育課程編成P D C Aサイクル確立に向け、教頭としてどのようにリーダーシップをとっていけばよいか。

提言者 日田市立石井小学校 相良 祐司

1 質 疑

- (1) Q 記録シートについて詳しく教えてほしい。
A 縦軸は、日付と曜日。横軸は、週番や朝会、帯の時間、スクールバスへの連絡、文書の締め切り、出張、育友会や地域の行事等で構成し、スケジュール化している。
- (2) Q 行事削減の観点から、地域の方々との行事や取組をやめた事例はあるか。
A 地域の方々との行事には、いも掘りなどがあるが、一度になくしていくわけにはいかない。自治会長など地域の方と顔見知りになり、相談していくステップが必要。学校の方で、行事の目的を見失わないように調整できることはしていく。

2 協 議

- (1) 地域とのつながりが強いことは、利点大きい。学校内でできる見直しは行い、今後も地域とのつながりを深め、教科と行事の関連を図りながら、教科等横断的な教育課程を編成するP D C Aサイクルを確立していくことが必要。
- (2) 主幹教諭や教務などのミドルリーダーが、責任をもって仕事をやり遂げられるように話し合う時間の確保や状況に応じた指導・助言をしていくことが、教頭として大切。教務が、学級担任をしているなどの実情はあるが、仕事を任せて人材育成を心がける。
- (3) 教育課程を次につなぐために、月1回のP D C Aサイクルやいつでも取り出せる環境整備、次期学習指導要領に向けての市全体やプロジェクトチームでの取組は、実施の確認や振り返りの声かけ、今後の見通しや改善につながる。

3 指導助言

- (1) 教科・領域の各行事のP D C Aサイクルを視覚化する本取組は、行事や活動の目的を振り返ったり見直したりできる効果的な取組である。また、学校全体の負担軽減にもつながると考えられる。
- (2) チーム学校としての教頭の役割は、内容や手順の提示、個人の分担（誰が、何を、いつまでに、どのように）を明確にすることである。できるだけ会議を持たなくて済むように調整していき、個々の力が最大限発揮されていくことが大切である。
- (3) 年間の見通しが持てるシンプルな視覚化された資料を教頭みんなが作ることが大切。大事なものは残し、不要なものはやめる。しかし、地域行事の精選は難しい。教頭は、地域の方と交流を深め、得た情報を校長に伝える、連携・調整の役割を果たしていく。